

European Association of Cardiovascular Imaging (EACVI) Heart Imagers of Tomorrow (HIT) Ambassador for Japan としての、EuroEcho Imaging 2016 の参加報告書

先生に EACVI HIT Ambassador for Japan にご推薦していただいてから早一年がすぎました。この度、ドイツ国ライプチヒ市で開催されました EuroEcho Imaging 2016 に Ambassador として 2 回目の参加をしてきましたので、ここに報告書を提出させていただきます。

① HIT Committee とは何か

HIT とは EACVI の 5 つの **Committees** (① International Communities、② Membership、③ Certification、④ Research & Innovation、そして⑤ HIT) の 1 つであり、現在 60 ケ国、約 2000 人が参加する、世界中の他のどの心血管画像系の学術集団にもない規模の若手医師の団体、ネットワークです。この HIT は IT 技術を駆使して、国境の壁を越えて、心エコー、心臓 MRI、心臓核医学分野の教育、研究を EACVI のシニアメンバーの協力を得て独自に展開しています(資料 1)。

② EuroEcho Imaging 2016

今回の EuroEcho Imaging から HIT の Chair が UK の Dr. Julia Grapsa からイタリアの Dr. Matteo Cameli に変更になりました。執行部の移行期かつ、通年で定期的に Web カンファレンスを開いているため本学会中に Ambassador 会議は開かれなかったものの、引き続き学会中 HIT 主催の教育講演、ポスターセッションなどの目玉企画が会場の至るところで散見されました。私も ESC Faculty、HIT ポスターセッションの Discussant として企画に初めて参加させていただきました。残念ながら会期中の HIT の総会には、自分のポスター発表時間と重なり参加はできなかったのですが、初日の夜に開かれた HIT Ambassador Dinner (写真 1) にて、各国大使と心エコー領域にまつわる情報の交換を行うことができました。

各国によって状況は異なりますが、次世代の教育を Ambassador レベルの若手医師達が積極的に学会組織で関与しているという事が、昨年同様に強く受け、シニア医師中心の教育体制に頼っている本邦の心血管イメージング教育の検討事項ではないかと痛感しました。また、TAVI をはじめとする SHD の画像についての話題も昨年同様 TOPIC であるとの印象を受けました。さらにアルコールが進んでくると、各国、各所属施設の医療状況や給与などよりリアルな情報の交換が積極的に行われました。UK の Brexit や難民問題のニ

ユースでご存知の方も多いかと思いますが、EU 諸国はシェンゲン協定（資料 2）により人・物・金を国境の壁を越えて統合する政策をとっていますので、医療の世界でもトレーニング先や就職先は国境を越えて探し求めるという土壌があるとのことでした。主に同門施設内で教育、就職が行われている我が国の現状とは一番異なった文化であると異国の地で感じ取りました。

また、2 日目の夜 Faculty Dinner の前に ACC/JACC Reception が、会場近くのホテルの一室で開催されました。これは JACC Imaging の Editor-in-Chief である Dr. Jagat Narula、他の JACC Imaging の Editors と HIT Ambassadors との親睦会であり、筆者も大変な親日家である Dr. Narula と日本のこと、筆者の当時 Revision 中の論文のことなど、大いに盛り上がり話をすることができました（資料 3、写真 2）。また、JACC Imaging 誌は今後若手の Editor 育成という試みがあり、前 HIT president である Dr. Grapsa が Senior Consulting Editor として JACC Imaging の Editorial として参加する予定であることが発表されました。これで世界 4 大心血管画像雑誌のうちの 50%となる「European Heart Journal - Cardiovascular Imaging」と「JACC Imaging」の 2 雑誌と HIT が政治的にコネクションを持つという、欧州の組織的世界戦略を知ることができました。

③ 日本心エコー図学会と HIT の連携強化

日本心エコー図学会と EACVI とのジョイントセッションは毎年開催されているものの、残念ながら日本の若手心エコー医の存在は、本学会においてほとんどといっていいほど認知されておられません。そんな中、本邦の Ambassador として本年の大阪で開催された日本心エコー図学会学術集会の YIA Winner である鍵山暢之先生（現ピッツバーグ大学）を新旧の HIT Chairs に紹介できたことは、今後の日本の若手医師と HIT との懸け橋の役目ができるのではないかと考えました（写真 3）。また Faculty Dinner の席にて EuroEcho Imaging 2016 YIA 選考会の結果発表があり、私のマサチューセッツ総合病院時代からの友人かつ共同研究者であるベルギーの Dr. Philippe Bertrand が Winner に選出されました。したがって彼は EACVI と日本心エコー図学会の交流事業の一環で来春の心エコー図学会年次集会に EuroEcho Imaging の Winner として招待される予定となりました。彼へのお祝いの言葉とともに中谷理事長に紹介できたことも、EACVI と日本心エコー図学会の若手の繋がり強化に貢献できたと考えました（写真 4）。

④ 今後の展望

Asian-Pacific Association of Echocardiography (AAE)の会長である米国 Mayo Clinic の Dr. Jae K Oh は本学会に参加され、「EuroEcho Imaging は、AAE がアジア太平洋地域における心エコーの臨床応用、研究を推進するロールモデルである。」と述べられています。同様に日本心エコー図学会の若手会員と HIT とのつながりは、日本の若手心エコー医

の海外交流のみならず、臨床、研究を推進するうえで、大変有用であると考えられます。

本邦でも 2016 年、若手心エコー医の自主的な Community が形成されつつあり、次世代の日本の心エコー分野を担う若手育成に、この度の経験が少しでもお役に立てれば幸いです。

乱文、失礼致しました。

帝京大学 内科学講座 循環器内科

EACVI Heart Imagers of Tomorrow Ambassador for Japan

片岡 明久

参考資料

1. 日本心エコー学会 HP、Euro Echo 2015 における European Association of Cardiovascular Imaging Heart Imagers of Tomorrow Meeting の参加報告書、片岡明久 <http://www.jse.gr.jp/EACVI%202015%20HIT.pdf>
2. 外務省 HP EU 関連用語集 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/eu/keyword.html#s>
3. Kataoka A, Hayashida K, et al. Prognostic Impact of Low-Flow Severe Aortic Stenosis in Small-Body Patients undergoing TAVI: the OCEAN-TAVI Registry. JACC Cardiovasc Imaging. in press.

参考写真

1. HIT Ambassador dinner での一枚。左奥が筆者、右手前が HIT Chair の Dr. Cameli。



2. ACC/JACC Reception での一枚。JACC Imaging の Editor-in-Chief の Dr. Jagat Narula (筆者左前)、Editors と HIT Ambassadors。



3. JSE 2016 YIA Winner の鍵山先生と前 HIT Char の Dr. Grapsa。



4. Faculty dinner での一枚。中谷理事長、EuroEcho Imaging 2016 YIA winner の Dr. Bertrand (中央) と筆者。

